

平成30年10月2日

若手研究者海外挑戦プログラム報告書

独立行政法人 日本学術振興会 理事長 殿

受付番号 201780163

氏名 高橋謙公

(氏名は必ず自署すること)

若手研究者海外挑戦プログラムによる派遣を終了しましたので、下記のとおり報告いたします。
なお、下記記載の内容については相違ありません。

記

- 派遣先:都市名 パレルモ (国名 イタリア)
- 研究課題名(和文) : 13-14世紀のシチリア海域における制海—異教徒間交流の場としての海—
- 派遣期間: 平成29年9月26日 ~ 平成30年9月25日 (365日間)
- 受入機関名・部局名: パレルモ大学(Università degli Studi di Palermo)
- 派遣先で従事した研究内容と研究状況(1/2ページ程度を目安に記入すること)

本プログラムで取り組まれた研究は、港湾行政に基づく「中世的制海」論を軸に、地中海世界中部域における政治文化の一旦を解明するものであった。今回の派遣を通じて、当初予定していた史料調査に加えて、イタリアの海事史研究者(Antonio Musarra教授、Gabriele Montelione女史ら)との会合を経て、中世地中海世界において観測される「制海」について新たな知見を獲得するに至った。すなわちそれは、中央行政によるハイ・ポリティックスの側面から港湾行政を扱ってきた「中世的制海」に関するこれまでの議論について、港の公証人によって発行された海事契約文書を分析することで、より地域的な次元での考察が可能になったということである。公証人文書は従来的に社会史研究に大きく寄与してきた史料群の一つであるが、海の政治文化史研究の文脈において用いられることは、商業・経済史の文脈を除けば、多くはない。これらの文書群に含まれる保険契約および用船契約は、本研究においてミクロな視点を授けるものであった。加えてこの史料群に内包される司法的性格に、異教徒間の処遇に関する裁判文書を確認することができた。残念ながら、これらの異教徒間にまつわる文書を分析する時間はなく、収集するにとどまったが、今後本研究を加速させることが期待される。

また今回師事したパレルモ大学Pietro Corrao教授からの助言で、シエナで開催された海事史研究集会に参加することができた。本集会はジェノヴァ大学の海事海軍史研究所(Laboratorio di Storia marittima e navale)によって主催され、各国の海事史研究者との接見が叶い、議論を交わすことができた。現地研究者との会合を通して、シチリアという地域が政治・文化的に重要であるという認識を持ちながらも、中世後期から近世のシチリア(海事)史に注目する研究は少なく、イタリアにおいてさえ、同テーマを追う研究従事者が不足している状況にあることを耳にした。そうした状況から、本研究遂行の意義を、世界の水準においても確認することができたと言えよう。

6. 研究成果発表等の見通し及び今後の研究計画の方向性 (1/2 ページ程度を目安に記入すること)

本研究成果の一部はすでに2018年10月6日に開催された早稲田大学史学会において「中世地中海世界のシー・パワーにおけるシチリア王国の港湾行政—晩禱時代(1282-1377)の人事文書から—」と題し報告された。また中世史研究の一翼を担う中世ルネサンス研究所の機関誌『エクス・フランス』にて論文にまとめ発表する見通しを立てている。

また本成果を現地研究にも還元するべく(昨今の電子ジャーナル等の媒体の普及に伴い)邦語のみならず英語での執筆活動を通してアウトプットする予定である。

今回の派遣を通して、想定していた史料調査に加え、公証人文書に含まれる諸海事契約文書の調査を行い、本研究は新たな展望を獲得した。しかし膨大に残された公証人文書の中から海事契約文書を探らなければならず、必然的に公証文書の網羅的な調査を行う必要があった。そのため、限られた時間内にこれらの史料群の細緻な分析まで終えることができなかった。したがって収集された同史料調査の継続が必要となる。これらの史料群は、これまで考察してきた「中世的制海」論に、公証人による地域的な実務活動を通して、社会史的観点からの新たな展望をもたらすと同時に、単純な社会史研究の枠組みを超えて、中世地中海世界の海事社会における政治文化に一言を呈することを可能とするだろう。

7. 本プログラムに採用されたことで得られたこと (1/2 ページ程度を目安に記入すること)

本プログラムを通じて得られた成果は、蒐集することのできた文献・史料群はもちろんであるが、それ以上に、現地で築くことのできた人脈であったと断言できる。現地研究者(とりわけ海事海軍史研究所Laboratorio di Storia marittima e navale及びシチリア海事図書館Biblioteca della Sovrintendenza del Mare)との交流は、本研究に重要な示唆を与えただけではない。各図書館に所蔵された文献史料やそれら文献情報量において大きなアドバンテージをもつ彼らとのコネクションは、我が国の西洋史研究に多大な恩恵をもたらすものである。加えてこの関係は一方的なものではない。とりわけ中世シチリア王国は多様な国家(あるいは勢力)によって征服された背景を持つ地域であり、そのため各国の歴史研究においては多分に「ナショナル」な影響を受けてきた分野であった。そうした背景を持つ地域における歴史研究において、我々の、すなわち異文化からの第三者的な視座は、現地研究者にとっても新鮮な視点を提供するものとなる。

情報の移動が高速化する昨今、グローバルに広がる人脈を育み、ネットワークを形成することは、今日行われている人文科学研究の発展に大きく寄与するものである。本プログラムを通じ、中長期的な滞在機会を獲得したことで、国際的なネットワークの中に入り込むことが可能になり、本研究を世界的な研究動向に位置付けることができたことは、今後の研究活動において大きな財産になるものであろう。